

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5m メッシュにより作成

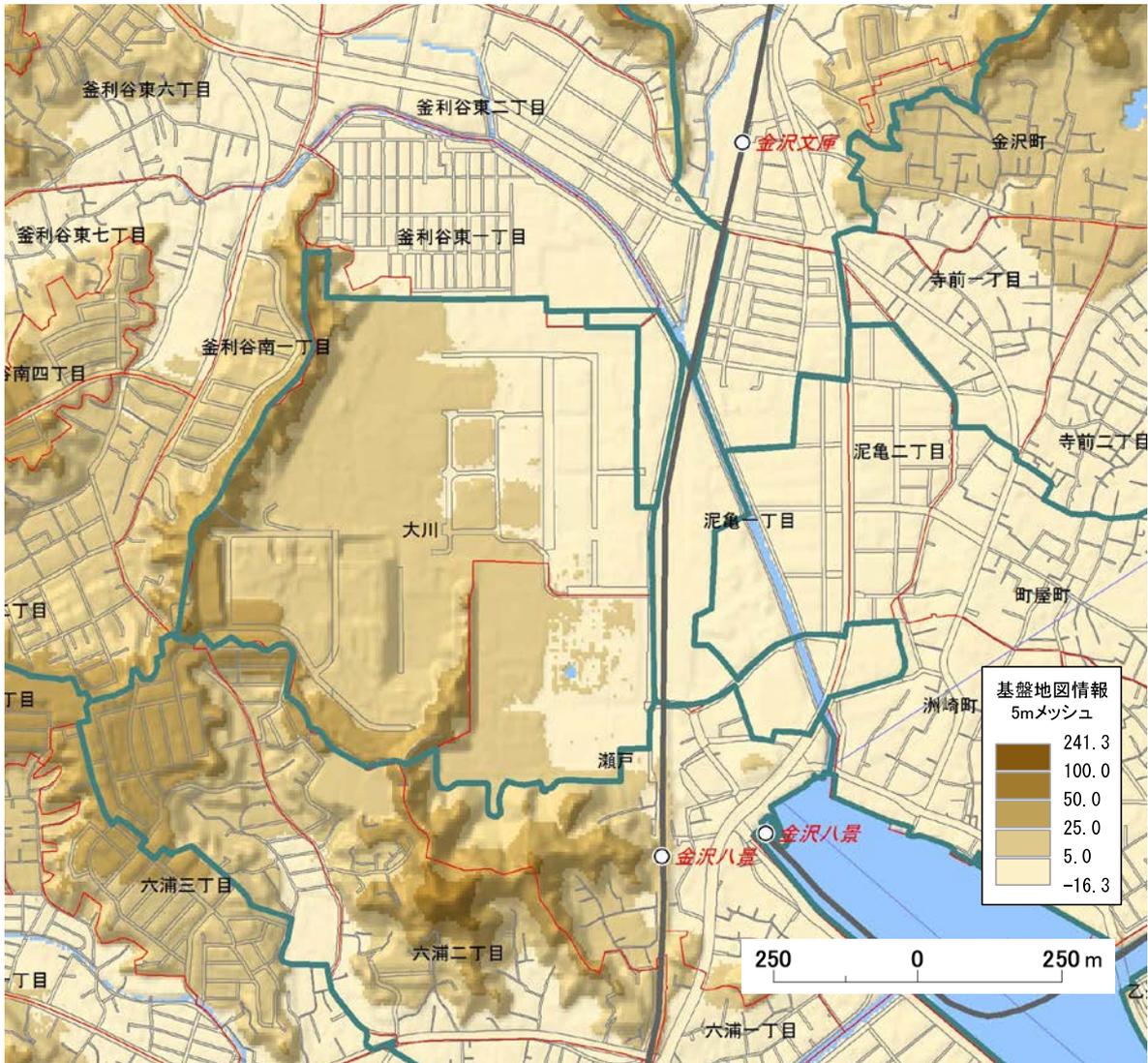


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ～25年	平成25 ～30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	5,714	5,754	5,712	40	▲ 42	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳人口 (人)	1,750	1,611	1,109	▲ 139	▲ 502	28.0	19.4	11.6	12.4
(内0～5歳) (人)	894	438	213	▲ 456	▲ 225	7.6	3.7	4.1	4.7
15～64歳人口 (人)	3,706	3,717	3,916	11	199	64.6	68.6	59.5	63.4
(内20～24歳) (人)	138	177	284	39	107	3.1	5.0	5.3	5.3
(内25～39歳) (人)	1,942	1,008	451	▲ 934	▲ 557	17.5	7.9	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	266	426	687	160	261	7.4	12.0	28.9	24.2
(内65～74歳) (人)	193	274	382	81	108	4.8	6.7	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	73	152	305	79	153	2.6	5.3	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	1,923	1,894	1,981	▲ 29	87				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.97	3.04	2.88					2.29	2.10

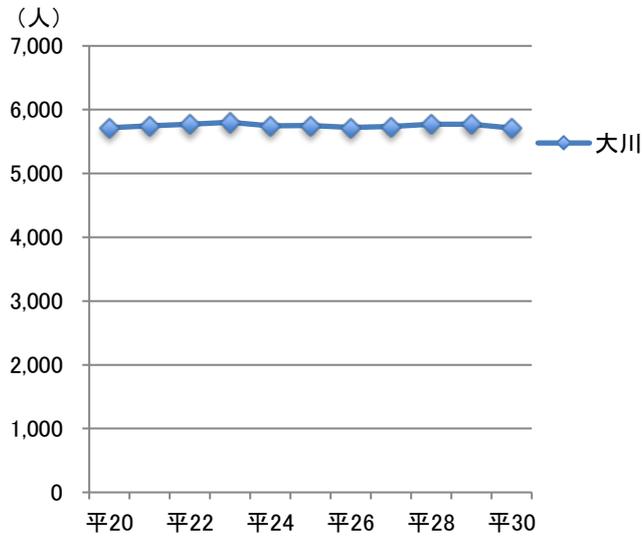
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目を単位に集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



大川地区には、平成30年9月末現在約5,710人が暮らしています。世帯数は約1,980世帯、平均世帯規模は2.88人/世帯です。(表1参照)

平成25～30年の期間で見ると人口は横ばいで、世帯数は増加しています。

世帯規模は、ゆっくりと大きくなり安定化し、緩やかに縮小するようになってきています。平成30年の平均世帯規模は市の平均水準(2.10人/世帯)、金沢区の平均(2.29人/世帯)を大きく上回っています。(表1参照)

平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は12.0%で、市平均(23.8%)、区の平均(28.6%)をともに大きく下回っています。

0～14歳の人口(年少人口)比率は19.4%で区や市の平均を大きく上回っています。

15～64歳の人口(生産年齢人口)は増加し、比率も少し上昇しました。(表1参照)

大川地区は、マンションの建設によって平成17～18年にかけて入居が進み人口、世帯数が増加した地区です。

図3 町丁別世帯数の動向

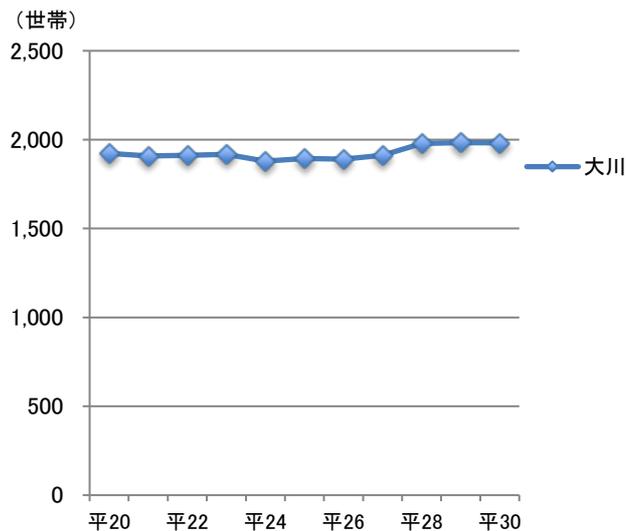
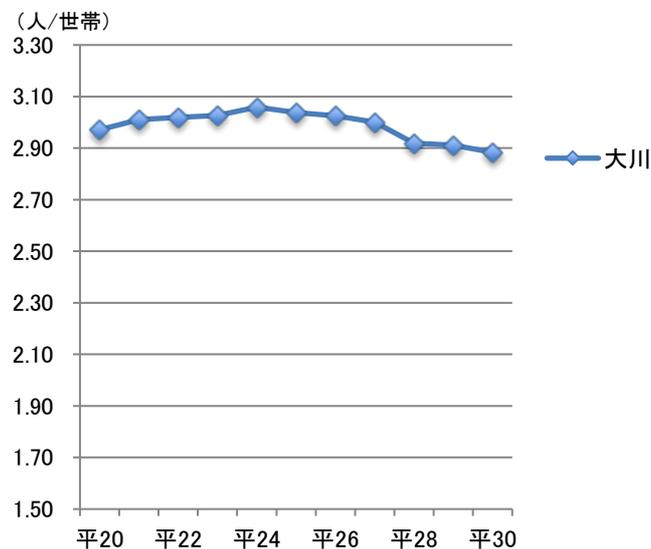


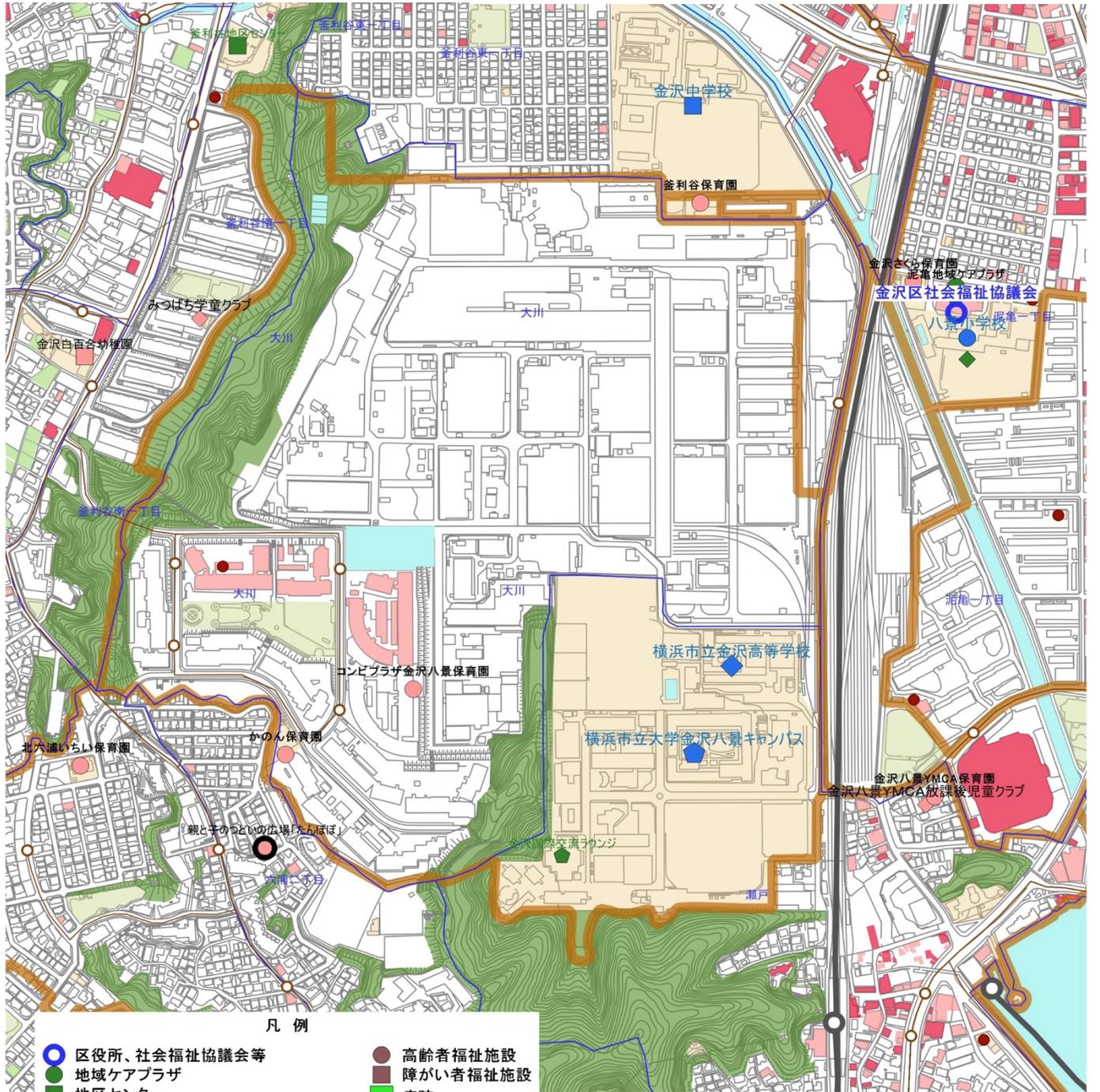
図4 町丁別平均世帯規模の動向



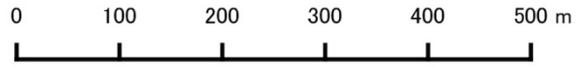
3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



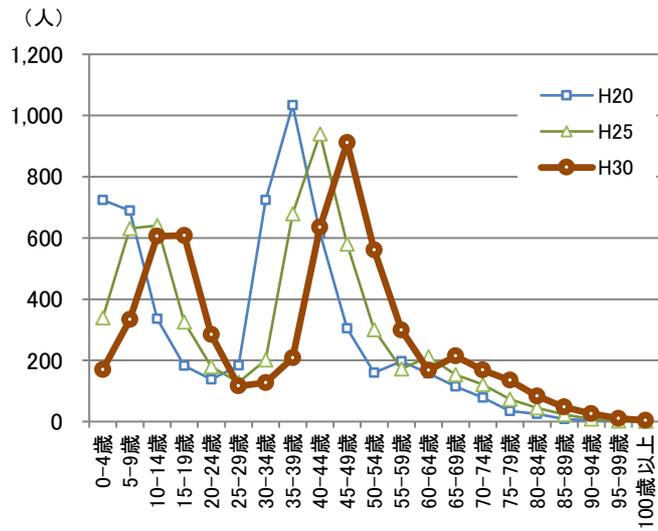
- 凡例
- 区役所、社会福祉協議会等
 - 高齢者福祉施設
 - 地域ケアプラザ
 - 障がい者福祉施設
 - 地区センター
 - 病院
 - ◆ コミュニティハウス
 - 自治会館
 - その他の区民利用施設
 - 保育園
 - バス停
 - 子育て支援拠点、親と子のつどいの広場
 - バス路線
 - 幼稚園
 - 町丁目区境界
 - ◆ 学童保育
 - 連合自治会区域
 - 小学校
 - 樹林地
 - 私立小学校
 - 河川・水面
 - 中学校
 - 田・畑
 - 私立中学校
 - 公園
 - 高等学校
 - 文教厚生施設用地
 - 大学
 - 店舗
 - 店舗併用住宅



【横浜市地形図複製承認番号 平28建都計第9020号】

4. 年齢別人口と人口移動

図6 年齢5歳別の人口の変化



*年齢別人口は「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在
*移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図7 年齢5歳別の人口の推移率

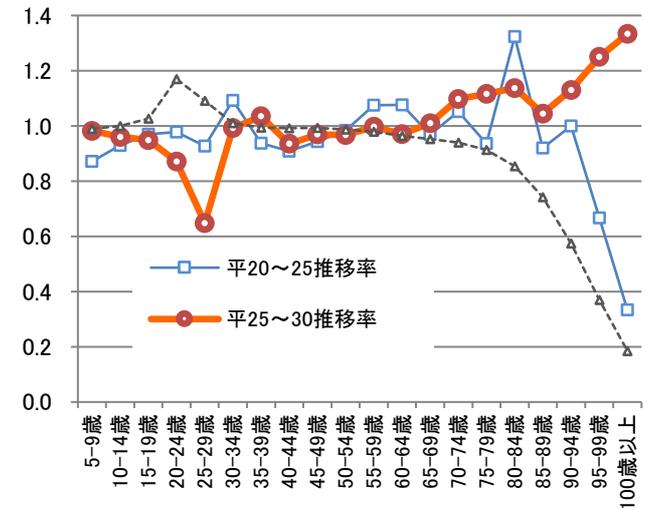
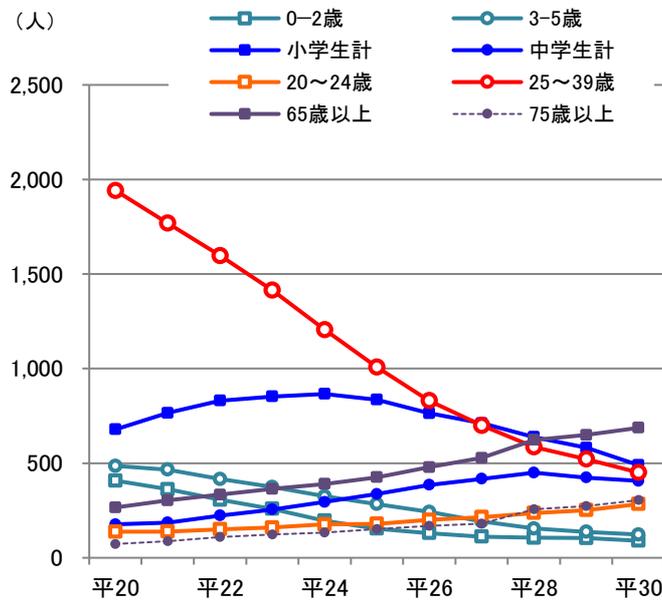


図8 年齢別人口の変化



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

大川地区では45～49歳と10～19歳に人口が多く集中しています。入居時点ではこれから5～10歳若い年齢構成だったと考えられます(図6参照)

平成25～30年推移率を見ると、25～29歳の転出減少がはじまっていることがわかります。(高齢者の推移率が高くなっているのは、高齢者の転入増加によるものです。人数が少ないので強調されています)

(図6, 7参照)

平成28年の社会移動は、転出入が少ないことを示しています。高齢者の転入増加(45人)が目立ちます。

(図10参照)

図9 人口移動の動向

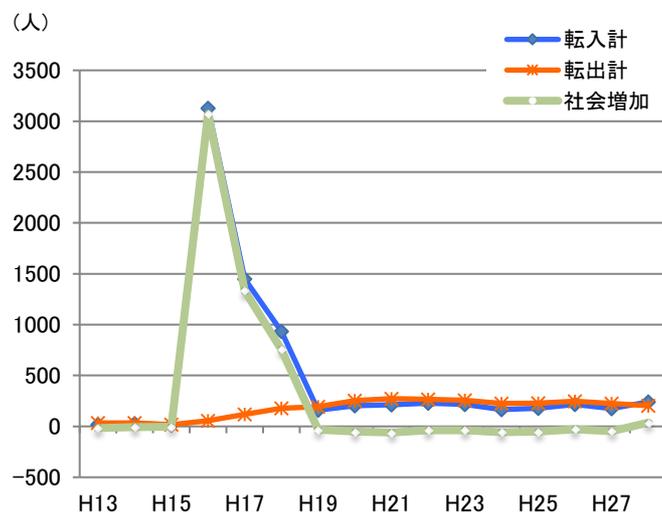
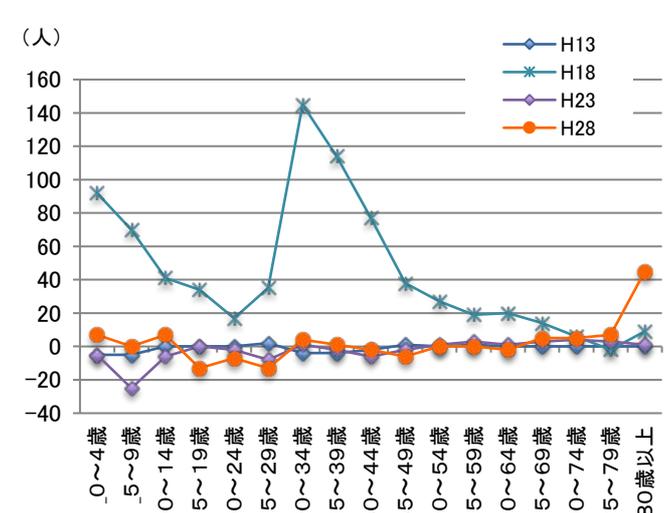


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

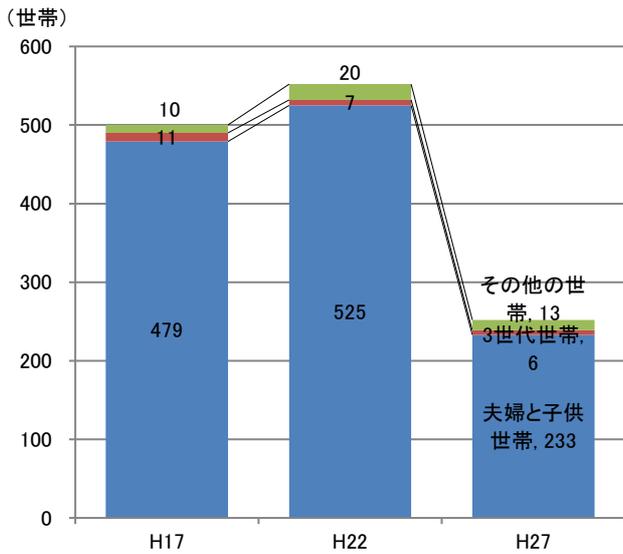


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

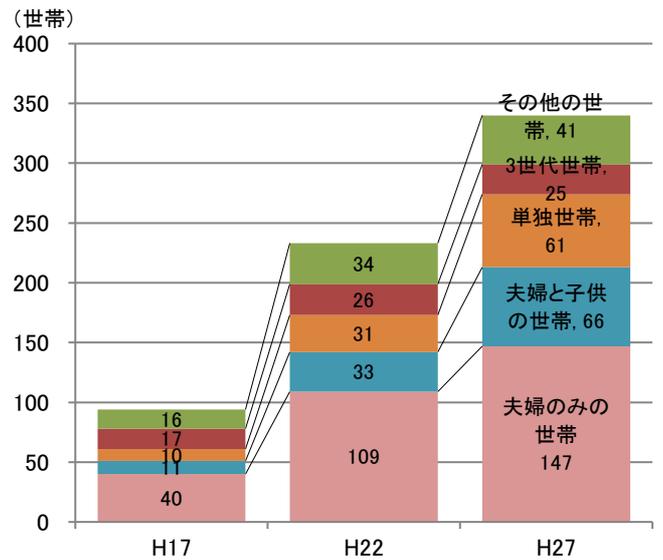


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

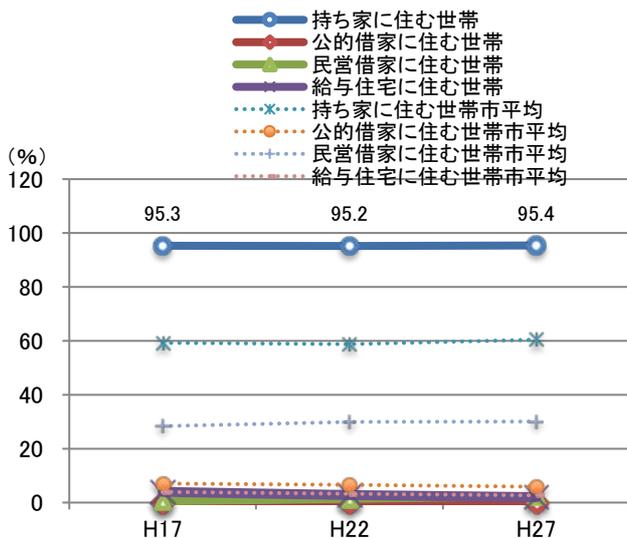


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

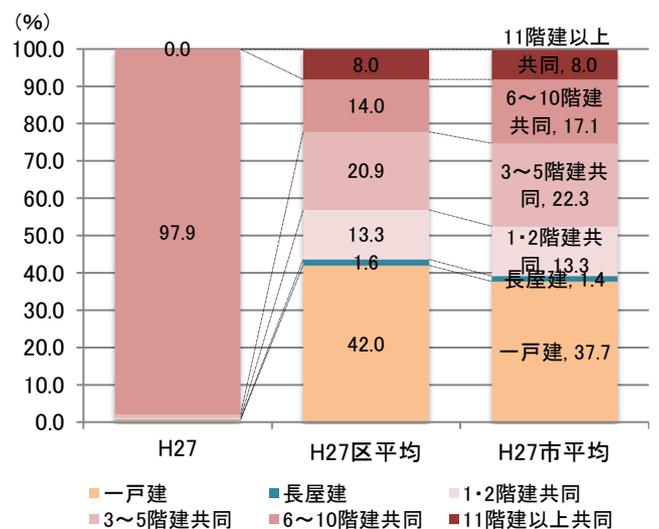


図 15 規模別世帯の動向

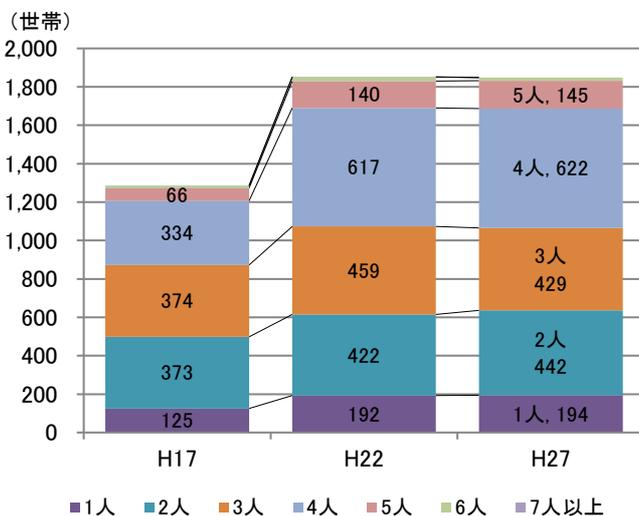
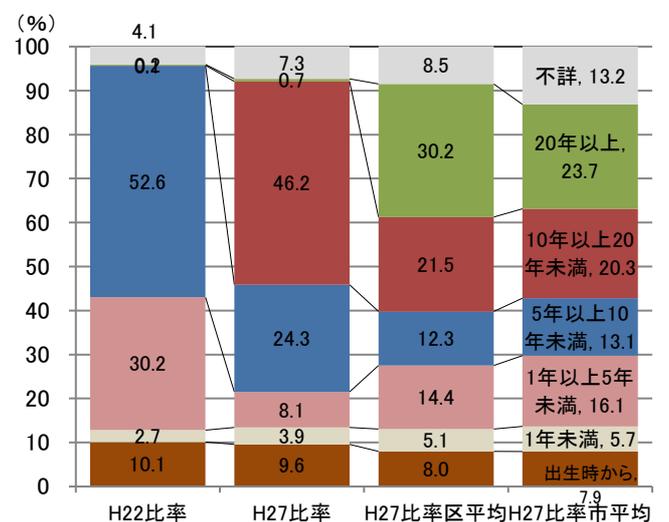


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数(男性高齢者)	高齢独居世帯数(女性高齢者)	高齢者のみ世帯数(単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数(高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	36	137	170	295
対世帯総数比率(%)	1.8 (区平均 4.8)	6.9 (区平均 11.7)	8.6 (区平均 14.3)	14.9 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	12.2 (区平均 17.9)	46.4 (区平均 43.4)	57.6 (区平均 53.2)	100.0

*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

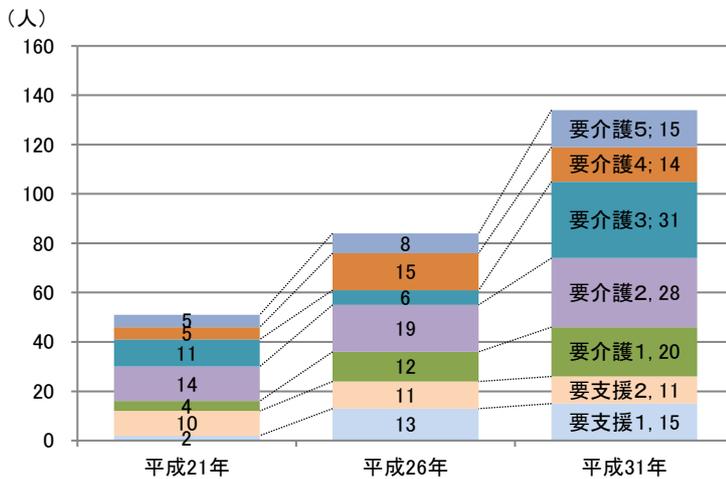
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	134	15	11	20	28	31	14	15
人口比(%)	2.36	0.26	0.19	0.35	0.49	0.54	0.25	0.26
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	11.19	8.21	14.93	20.90	23.13	10.45	11.19
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

大川地区は 横浜市立大学八景キャンパスの西側にマンションの建設によって平成 17～18 年にかけて入居が進み人口、世帯数が増加した地区です。

地区の居住者のほぼすべてが共同住宅に住んでいます。(図 14 参照)

また、ほぼすべての世帯が持家(分譲マンション)です。(図 13 参照)

平成 17～18 年に入居したため、居住歴が 10 年以上になる人が増えています。(図 16 参照)

6 歳未満の子どもがいる世帯は平成 27 年で約 250 世帯となり、平成 22 年に比べ半減しました。世帯総数(約 1,850 世帯)の約 13%を占めています(区平均は約 8%)。このうち約 93%が核家族です。(図 11 参照)

平成 27 年で高齢者のいる世帯数は 340 世帯で、世帯総数の約 18%を占めています。(区平均は約 41%)。このうち、高齢者の夫婦のみの世帯は約 43%、高齢者の単独世帯は約 18%です。(図 12 参照)

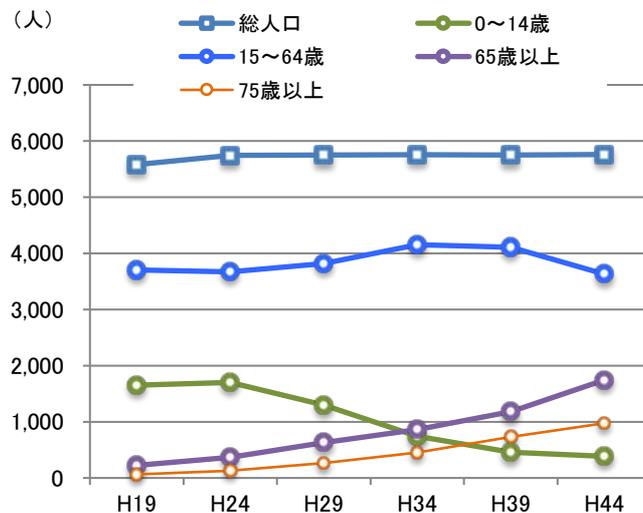
平成 29 年時点で高齢者のいる世帯の比率は約 23%です。(区の平均は約 43%) (表 2 参照)

また、要介護認定者の人口比率は約 2.3 %です。(区の平均約 4.7%) (表 3 参照)

現在は、人口、世帯数がともに安定しています。現在の年齢 5 歳別の人口の変化の傾向が続くと、今後も安定した状態が続きます。

年少人口比率は、現在 23%程ありますが、順次生産年齢になり、また、転出減少も若干あるので、急速に比率は低下していきます。(図 6、7、18、19 参照)

図 18 人口の動向と推計



*平成 24～29 年の年齢 5 歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

*平成 34 年以降が推計値です。

図 19 人口の動向と推計 年齢別比率

